

令和5年度 芸術科 音楽

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	「MOUSA 1」 (教育芸術社)						
副教材等	New Recorder Library (教育芸術社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

1年間を通して、鑑賞と歌唱や器楽実技を行います。実際に音を出して演奏する過程で音楽の基礎や構造を知り、鑑賞では作曲された背景を知ります。アンサンブル活動は、ほかの生徒さんの演奏を聞き、多様な考え方に触れる機会です。1年の最後には、「この音楽はどのように演奏するのがふさわしいか」を考えながら楽曲演奏に取り組む主体的な活動をめざします。

2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<p><b>【表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創意工夫を生かした歌唱表現を身に付けている。</li> <li>・創意工夫を生かした器楽表現を身に付けている。</li> <li>・創意工夫を生かした創作表現を身に付けている。</li> </ul> <p><b>【鑑賞】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創意工夫を生かした表現を理解している。</li> </ul>	<p><b>【表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージを持って歌唱表現・器楽表現・創作表現を創意工夫している。</li> </ul>	<p>主体的に協動的に歌唱分野・器楽分野・創作分野の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	鑑賞	・鑑賞(6曲)	a:様々な国の楽曲に触れ、作品の背景を学び、音楽の構成を考えながら鑑賞することができる。 b:自分の感じたこと、考えたことを記述することができる。 c:適切な鑑賞する姿勢や態度を示すことができる。	学習プリント	学習プリント	観察・聴取  学習プリント
	表現	・器楽 ・歌唱	a:正確な音程・リズムを理解することができる。 b:正確な音程やリズム、拍子を表現することができる。 c:個人練習だけでなく、他の生徒と協働的に学習し、練習に取り組むことができる。	学習プリント 課題進 度状況 実技試 験	学習プリント 課題進 度状況	観察・聴取  学習プリント
2	鑑賞	・鑑賞(6曲)	a:様々な国の楽曲に触れ、作品の背景や作曲家の意図を考えながら鑑賞することができる。 b:自分の感じたことや考えたことだけでなく、使われている音楽の構成や要素を適切な語彙用いて表現することができる。 c:適切な鑑賞する姿勢や態度を示すことができる。	学習プリント	学習プリント	観察・聴取  学習プリント
	表現	・器楽アンサンブル ・歌唱(独唱・二重唱)	a:正確な音程・リズムを理解し、ダイナミズムやフレージング等の要素を理解することができる。 b:学習した音楽の要素を楽曲演奏に用いることができる。 c:個人練習だけでなく、他の生徒と協働的に学習し、意見や考えを共有しながら練習に取り組むことができる。	学習プリント 課題進 度状況 実技試 験	学習プリント 課題進 度状況	観察・聴取  学習プリント
3	鑑賞	・鑑賞(3曲)	a:様々な国の楽曲に触れ、自国の音楽との違いを理解し鑑賞することができる。 b:音楽の特徴や違いを具体的に記述することができる。 c:適切な鑑賞する姿勢や態度を示すことができる。	学習プリント	学習プリント	観察・聴取  学習プリント

※令和4年度以降入学生用

	表現	・器楽アンサンブル	<p>a:正確な音楽の要素を理解し、表現する際どのように用いるかを考えることができる。</p> <p>b:正確な音楽の要素を用いて楽曲演奏することができる。</p> <p>c:個人練習だけでなく、他の生徒と協働的に活動し、楽曲演奏を完成させることができる。</p>	<p>学習プリント 課題進 度状況 実技試 験</p>	<p>学習プリント 課題進 度状況</p>	<p>観察・聴 取  学習プリ ント</p>
--	----	-----------	--	---	-------------------------------	--

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 美術科

教科	美術	科目	美術 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	「美術 1」 (光村図書)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。  
 ・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現方式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に見方が広がったり深まったりします。

2 学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	造形的な視点を豊かにするための知識と、創造的な表現をするために必要な技能を身につけている。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成している。創造的な表現の構想を練り、意図に応じて表現方法を工夫している。美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	色彩構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>色鉛筆を用いて、色彩効果を学ぶ。色彩の体系を理解して、思い通りに混色、配色ができるようになる。</li> </ul>	a: 色彩の効果について正しく理解し活用している b: 主題に見合った効果的な配色を工夫し表現できている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
	油彩 静物画	<ul style="list-style-type: none"> <li>二点透視図法を学ぶ。</li> <li>画面の大きさに見合った構図やバランスのとれた配置を学ぶ。</li> <li>油絵具の扱いに慣れる。</li> <li>塗り重ねやグラデーションの技法を学ぶ。</li> <li>質感の表現を学ぶ。</li> <li>合評会</li> </ul>	a: 二点透視図法を理解し正確な形を描けている 油絵具の特性について理解し作品を制作できている b: モチーフの特徴を感じ取り、質感の表現を工夫している それぞれの作品の良さを感じ取ることができている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
	デザインロゴマーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>意図と伝達効果の視点からデザインを理解する。</li> <li>自分の名前をロゴデザインし、色鉛筆で着彩する。</li> </ul>	a: 色彩や形態の視覚効果について正しく理解し活用している b: 主題に見合った効果的な配色を工夫し表現できている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
2	メディア表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代アートやメディアによる発信について触れ、制作意図やその表現方法の可能性について考える</li> </ul>	a: 芸術が人々の心に与える効果について正しく理解している b: 主題に見合った表現を工夫しアイデアに反映できている c: 深い考察をもとにしてアイデアを出している	学習プリント 取組状況 提出物	提出物	取組状況 振り返り
	鉛筆デッサン基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>形のとり方やタッチのつけ方など、鉛筆デッサンの基礎を学ぶ。</li> <li>石膏レリーフ(面取り)のデッサンを通して、明暗を捉えて立体感を表現する技術を身につける。</li> <li>自画像デッサンを通して、顔の立体感や形状、線の流れを捉えて表現する技術を身につける。</li> <li>合評会</li> </ul>	a: 鉛筆デッサンの技法を学び、表現に合った鉛筆を使うことができる モチーフの形態や特徴を観察し正確に描くことができる b: タッチの強弱や粗密を工夫しながらモチーフの質感や立体感を表現している c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り

※令和4年度以降入学生用

	油彩「顔」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自画像」または「タレントの顔」を油絵で描く。</li> <li>・これまで学んだ知識や技術をすべて使って、力強くかつ繊細に描く。</li> <li>・画面構成、立体感、細部の表現、肌や髪の毛の質感、色の深みや奥行きなどをじっくりと描き出す。</li> <li>・合評会</li> </ul>	<p>a:対象をよく観察し正確な形を捉えて描くことができる 混色や塗り重ねで意図した色を作り出すことができる</p> <p>b:人物の特徴や内面性を表現し描き出す工夫をしている</p> <p>c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している</p>	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
3	油彩「三面図」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・煮干を油絵で写実的に表現し、三面図を作成する。</li> <li>・形状や色彩を把握する。</li> </ul>	<p>a:対象をよく観察し正確な形を捉えて描くことができる 混色や塗り重ねで意図した色を作り出すことができる</p> <p>b:個体の繊細な色みや特徴を表現できている</p> <p>c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している</p>	取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
	彫塑「煮干しマグネット」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・煮干しの形状を立体的に把握し、木彫で再現する。</li> <li>・用途に合った適切な道具を選び、安全に扱って作品を制作する。</li> <li>・アクリル絵具の特性を理解する。</li> <li>・個体の細部の色味を感じ取りながら、忠実に再現し着色する。</li> </ul>	<p>a: 木彫の技法を学び、表現に合った道具を使うことができる 対象をよく観察し正確な形を掘ることができる</p> <p>b: 個体の複雑な形状の変化を再現し、繊細な色みや特徴を表現できている</p> <p>c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している</p>	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	「 書 I 」 (光村出版)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

小・中学校の書写学習を基礎として表現や鑑賞など書に親しむ活動を通して豊かな感性を育て書を愛好し、自己を主体的に表現するための書道の基礎的な能力を育み伸ばして行きましょう。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯学習にわたり書を楽しむ心を育てると共に感性を高め、書の美しさを理解して書写能力の向上を図る。また、表現と鑑賞能力を伸ばして様々な書風に触れ伝統と文化について理解を深める。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書の表現の方法や形式、多様性について幅広く理解している。</li> <li>・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	漢字の書	<p>・楷書の古典臨書を通じて、古典の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。</p> <p>・楷書の古典の書風の即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら表現する。(創作)</p>	<p>a:古典の特徴と表現効果との関わり、書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。(知)</p> <p>a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知)</p> <p>a:書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身に付けている。(技)</p> <p>b:古典のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆・運筆、字形などを工夫している。</p> <p>b:創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを楽しむ捉えている。(鑑)</p> <p>c:漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p> <p>c:書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)</p>	作品	プリント	振り返り プリント  観察
2	篆刻	<p>・篆刻の歴史を知り、理解する。</p> <p>・篆刻の魅力に触れ、工夫しながら制作に取り組む。</p>	<p>a:古典の特徴と表現効果との関わり、書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。(知)</p> <p>a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知)</p>	作品	プリント	振り返り プリント  観察



※令和4年度以降入学生用

	<p>行書の書</p>	<p>・行書の古典臨書を通じて、古典の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。</p> <p>・行書の古典の書風の即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら表現する。(創作)</p>	<p>a:書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身に付けている。(技)</p> <p>b:古典のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆・運筆、字形などを工夫している。</p> <p>b:創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。(鑑)</p> <p>c:漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p> <p>c:書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)</p>	<p>作品</p>	<p>プリント</p>	<p>振り返り プリント</p> <p>観察</p>
	<p>漢字仮名交じりの書</p>	<p>・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>・意図に基づき、漢字(楷書・行書)と仮名の調和した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。(創作)</p>	<p>a:用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知)</p> <p>a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知)</p> <p>a:目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている。(技)</p> <p>b:漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し、工夫している。</p> <p>b:想像された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。(鑑)</p> <p>c:自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>C:書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)</p>	<p>作品</p>	<p>プリント</p>	<p>振り返り プリント</p> <p>観察</p>

※令和4年度以降入学生用

3	仮名の書	<p>・臨書を通じて、古典(平仮名・変体仮名・片仮名)の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。</p> <p>・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。(創作)</p>	<p>a:古典の特徴と表現効果との関わり、書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。(知)</p> <p>a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知)</p> <p>a:書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身に付けている。(技)</p> <p>b:古典のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆・運筆、字形などを工夫している。</p> <p>b:創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。(鑑)</p> <p>c:仮名の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p> <p>c:書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)</p>	作品	プリント	振り返り プリント  観察
---	------	---	---	----	------	------------------------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	404
------	-----

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「MOUSAⅡ」 (教育芸術社)						
副教材等	「Music Navigation」 (教育出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>音楽Ⅱでは、①器楽 (1年次で学習した内容と打楽器) ②歌唱 (日本歌曲・ドイツ歌曲等・3部・4部合唱) ③鑑賞④楽典 (音楽理論)、の4つの分野を学習します。グループワーク (アンサンブル) では、他の生徒さんと一緒にひとつの楽曲を作りあげることが目標にします。興味を持って積極的に参加し、楽曲の学習・練習に一生懸命取り組む姿勢が大切です。</p>
--

2 学習の到達目標

<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
---

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱・器楽表現に関わる知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに歌唱・器楽表現を創意工夫している。</li> <li>・創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱・器楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</li> <li>・様々な音素材や様式、表現形態などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができる。</li> <li>・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号について、音楽における働きと関わらせを理解している。</li> </ul>	<p>主体的・協働的に歌唱・器楽・創作・鑑賞分野の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽</li> <li>・歌唱(二重唱)</li> </ul>	<p>a: :曲にふさわしい発声や奏法、言葉の発音、身体の使い方などの技能を理解することができる。</p> <p>b: 他者との調和を意識して演奏・歌う技能を理解することができる。</p> <p>c: 表現形態の特徴や表現上の効果を生かして演奏・歌う技能を理解することができる。</p>	実技試験 取り組み 状況 協働的な学習	実技試験 取り組み 状況 協働的な学習	ワークシート 観察法
	鑑賞	・ロマン派・近現代の音楽6曲	<p>a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解することができる。</p> <p>b: 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解することができる。</p> <p>c: 我が国の郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解することができる。</p>	鑑賞シート	鑑賞シート	鑑賞シート
2	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽アンサンブル①</li> <li>・歌唱(三重唱)</li> <li>・楽典(音楽理論)</li> <li>・伝統芸能②</li> </ul>	<p>a: :曲にふさわしい発声や奏法、言葉の発音、身体の使い方などの技能を考え、表現することができる。</p> <p>b: 他者との調和を意識して演奏・歌う技能を考え、表現することができる。</p> <p>c: 表現形態の特徴や表現上の効果を生かして演奏・歌う技能を考え、表現することができる。</p> <p>d: 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を理解している。</p>	実技試験 筆記試験 取り組み 状況 協働的な学習	実技試験 ワーク 取り組み 状況 協働的な学習	ワークシート 観察法 取り組み 状況

※令和4年度以降入学生用

	鑑賞	近現代の楽曲5曲	<p>a: 曲や演奏に対する評価とその根拠を考え、表現することができる。</p> <p>b: 自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考え、表現することができる。</p> <p>c: 音楽表現の共通性や固有性を考え、理解することができる。</p>	鑑賞シート	鑑賞シート	鑑賞シート
3	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽アンサンブル②</li> <li>・歌唱(合唱)</li> <li>・音楽史</li> </ul>	<p>a: 歌唱や器楽演奏に関わる知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに歌唱・器楽演奏を創意工夫することができる。</p> <p>b: 他者との調和を意識して演奏・歌う技能を理解し、表現することができる。</p> <p>c: 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解することができる。</p>	<p>実技試験</p> <p>取り組み状況</p> <p>協働的な学習</p>	<p>実技試験</p> <p>ワーク</p> <p>取り組み状況</p> <p>協働的な学習</p>	<p>ワークシート</p> <p>観察法</p> <p>取り組み状況</p>
	鑑賞	鑑賞3曲	<p>a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解することができる。</p> <p>b: 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解することができる。</p> <p>c: 曲や演奏に対する評価とその根拠と、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考え、音楽のよさ美しさを深く味わって聴くことができる。</p>	鑑賞シート	鑑賞シート	鑑賞シート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 美術科

教科	美術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「美術2」 (光村図書)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。

・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現方式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に見方が広がったり深まったりします。

2 学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。(1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	造形的な視点を豊かにするための知識と、創造的な表現をするために必要な技能を身につけている。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成している。創造的な表現の構想を練り、意図に応じて表現方法を工夫している。美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	油彩 模写	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の流れや目標を理解し、主体的に学習する姿勢をつくる。</li> <li>教科書や画集から、好みの名画を選び、表現技法や作品に込められた作者の思いを鑑賞する。</li> <li>構図はもとより、作品の醸し出すイメージ、色の深み、筆のタッチなどを丁寧に捉え、画面表現する。</li> <li>合評会</li> </ul>	a: 原画の主題や技法について正しく理解している b: 原画を観察し特徴を捉えて表現を工夫できている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
	彫刻 名画のレリーフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>模写の課題で描いた作品をレリーフに起こす。表現技法や作品に込められた思いを感じ取りながら、想像力を働かせて凹凸を刻む。</li> <li>用途に合わせて適切な道具を選びそれらを安全に扱って作品を作る。</li> <li>作品の醸し出すイメージを忠実に再現し着彩する。</li> <li>合評会</li> </ul>	a: 表現の用途に合わせた彫刻刀を安全に使用する b: 平面作品の奥行きを想像しながら、工夫して表現している それぞれの作品の良さを感じ取ることができている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
2	籐工芸 かご	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術領域と工芸領域の違いを知る。</li> <li>籐編みの技術を学び、屑かごを制作する。</li> <li>色染めした籐を編み込み、好みの模様をつける。</li> </ul>	a: 美術領域と工芸領域の違いについて正しく理解している 素材の特性と、特性を生かした技法を正しく理解している 適度な力加減で根気良く作業を継続し、美しい作品を作る技術を身につけている b: 出来上がりをイメージして、効果的に模様を入れることができている c: より良い作品作りのために根気よく丁寧に作業している	取組状況 提出物	提出物	取組状況 振り返り

※令和4年度以降入学生用

	立体塑像 動きを表す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「動きを表す言葉」からイメージした形を、立体作品に表現する。</li> <li>・制作意図に基づいてデザインしたフォルムを三面図に起こす。</li> <li>・石膏粘土で塑像し、彫刻や磨き作業を施す。</li> <li>・アクリル絵具で着彩する。</li> <li>・合評会</li> </ul>	<p>a: 立体作品の必要条件について理解し、留意して制作する 制作意図に基づいてデザインしたフォルムを三面図に起こす</p> <p>b: 想像力を働かせ、イメージを膨らませて立体作品に表現する</p> <p>c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している</p>	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
3	自由制作 フレームアート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混合技法によってイメージを表現する。</li> <li>・木製B4パネルを用い、油彩、水彩、コラージュ、レリーフ、工作など、思い思いの技法を使って作品を制作する。</li> <li>・各自が制作手順と日程の計画を立て企画書を作成する。</li> <li>・合評会</li> </ul>	<p>a: 制作意図に基づき、主体的に作品を作り出すことができる</p> <p>b: 想像力を働かせ、自由に柔軟な発想で作品を制作できる</p> <p>c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している</p>	取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度



令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「書Ⅱ」 (光村出版)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

書道における表現と鑑賞の幅広い活動の中で、感性を高め、書の伝統や文化についての理解を深めていきます。様々な場面に対応できる書写能力を育て、主体的に自己を表現する能力を高めていきましょう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のおよさを味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書の表現の方法や形式、多様性について理解している。</li> <li>・書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な具能を身に付け、表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のおよさを味わい捉えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に書の表現及び鑑賞を創造的に活動に取り組もうとしている。</li> </ul>
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	漢字の書	<p>・楷書の古典臨書を通じて、古典の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。</p> <p>・楷書の古典の書風の即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら表現する。(創作)</p>	<p>a: 古典の特徴と表現効果との関わり、書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。(知)</p> <p>a: 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知)</p> <p>a: 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身に付けている。(技)</p> <p>b: 古典のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆・運筆、字形などを工夫している。</p> <p>b: 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。(鑑)</p> <p>c: 漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p> <p>c: 書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)</p>	作品	プリント	<p>振り返りプリント</p> <p>観察</p>
2	篆刻	<p>・篆刻の歴史を知り、理解する。</p> <p>・篆刻の魅力に触れ、工夫しながら制作に取り組む。</p>	<p>a: 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知)</p> <p>a: 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知)</p>	作品	プリント	<p>振り返りプリント</p> <p>観察</p>

※令和4年度以降入学生用

2	漢字仮名交じりの書	<p>・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>・意図に基づき、漢字(楷書・行書)と仮名の調和した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。(創作)</p>	<p>a: 目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている。(技)</p> <p>b: 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し、工夫している。</p> <p>b: 想像された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。(鑑)</p> <p>c: 自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>C: 書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)</p>	作品	プリント	振り返りプリント
---	-----------	---	--	----	------	----------

※令和4年度以降入学生用

3	<p>仮名の書</p>	<p>・臨書を通じて、古典(平仮名・変体仮名・片仮名)の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。</p> <p>・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。(創作)</p>	<p>a:古典の特徴と表現効果との関わり、書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。(知)</p> <p>a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知)</p> <p>a:書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身に付けている。(技)</p> <p>b:古典のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆・運筆、字形などを工夫している。</p> <p>b:創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。(鑑)</p> <p>c:仮名の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p> <p>c:書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(鑑)</p>	作品	プリント	振り返りプリント
---	-------------	---	---	----	------	----------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「音楽Ⅲ」(教育出版)						
副教材等	「Music Navigation」(教育出版)						

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

楽器の演奏や歌唱の上達には時間と根気が必要です。また、自分の技能・表現方法に対して客観的に考える力が必要となります。「どんな演奏がしたいか」「どう表現したいか」など、演奏をするにあたって明確な目標を持って取り組む姿勢が大切です。

2. 学習の到達目標

音楽Ⅲでは、①器楽(打楽器・管楽器・弦楽器・鍵盤楽器)の独奏とアンサンブル②歌唱(日本歌曲・西洋歌曲・合唱)③鑑賞④創作を実施します。グループワーク(アンサンブル)では、個人の演奏能力を生かし、質の高い楽曲演奏ができることを目標にします。また、器楽の学習では、ピアノ演奏法の学習を行うため、各自練習が必要となります。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 音楽への関心・意欲・態度	b: 音楽表現の創意工夫	c: 音楽表現の技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら歌唱・器楽・創作の様々な表現形態による特徴を生かして音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識・歌唱・器楽・創作の技術を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組む姿勢</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・鑑賞シート</li> <li>・ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技試験</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・グループワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技試験</li> <li>・ワークシート</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技試験</li> <li>・鑑賞シート</li> <li>・取り組む姿勢</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

#### 4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	・オリエンテーション ・器楽アンサンブル① ・鑑賞 ・歌唱 ・ピアノ実技	・アンサンブル奏(三重奏)を行う。 ・様々な国の楽曲の鑑賞を通して、より広い知識に基づき、他者を尊重する態度を育成する。 ・西洋歌曲の歌唱や鑑賞を通じて、様々な表現法を学び、演奏する。 ・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。	○	○	○	○	a:音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。  b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら歌唱・器楽・創作の様々な表現形態による特徴を生かして音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。  c:創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識・歌唱・器楽・創作の技術を身につけ、創造的に表している。  d:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	実技試験 鑑賞シート ワークシート
2	・器楽アンサンブル② ・鑑賞 ・歌唱 ・ピアノ実技	・アンサンブル奏(四重奏)を学習する。 ・様々な国の楽曲の鑑賞を通して、より深い知識とともに、他者を尊重する態度を育成する。 ・合唱曲を学習し、声によるアンサンブルを学ぶ。 ・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。	○	○	○	○	a:音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。  b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら歌唱・器楽・創作の様々な表現形態による特徴を生かして音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。  c:創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識・歌唱・器楽・創作の技術を身につけ、創造的に表している。  d:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	実技試験 鑑賞シート ワークシート
3	・器楽アンサンブル③ ・鑑賞 ・歌唱 ・創作 ・ピアノ実技	・アンサンブル(管・弦・打楽器)を学習する。 ・鑑賞(3曲)を通して、より深い知識とともに、自分と異なる意見を尊重することを学ぶ。 ・創作活動の実施と記譜を学ぶ。 ・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。	○	○	○	○	a:音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。  b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら歌唱・器楽・創作の様々な表現形態による特徴を生かして音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。  c:創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識・歌唱・器楽・創作の技術を身につけ、創造的に表している。  d:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	実技試験 鑑賞シート ワークシート

※ 表中の観点について a:音楽への関心・意欲・態度 b:音楽表現の創意工夫  
c:音楽表現の技能 d:鑑賞の能力

#### ※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

## 令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「 美術1 」 ( 光村図書 )						
副教材等	「 」 ( 出版)						

## 1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。  
 ・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現方式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更見方が広がったり深まったりします。

## 2. 学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

## 3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 美術への関心・意欲・態度	b: 発想や構想の能力	c: 創造的な技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

#### 4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	油彩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F8サイズの油彩作品を制作する。</li> <li>・油絵具の扱い、画面構成、対象の捉え方を学び、静物画を描く。</li> <li>・合評会</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a: 主体的・意欲的に課題に取り組んでいるか</li> <li>b: 感性や想像力を働かせて構想を練っているか</li> <li>c: 主題に合った表現方法を工夫しているか</li> <li>d: 作品のよさや美しさを創造的に味わっているか。</li> </ul>	ワークシート アイディアスケッチ 制作途中の作品 作品 合評会
2 ・ 3	卒業制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B2パネルにアクリル画を描く。</li> <li>・パネルの水張り技術を学ぶ。作品のテーマは自由とし、主体的・創造的に作品を制作する。</li> </ul>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a: 主体的・意欲的に課題に取り組んでいるか</li> <li>b: 感性や想像力を働かせて構想を練っているか</li> <li>c: 主題に合った表現方法を工夫しているか</li> <li>d: 作品のよさや美しさを創造的に味わっているか。</li> </ul>	ワークシート アイディアスケッチ 制作途中の作品 作品 合評会

※ 表中の観点について

a: 美術への関心・意欲・態度

b: 発想や構想の能力

c: 創造的な技能

d: 鑑賞の能力

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。



## 令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「 美術3 」( 光村図書 )						
副教材等	「 」( 出版)						

## 1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について美術Ⅰ・Ⅱで学んだ知識や技能を生かしながら、美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組みましょう。

## 2. 学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

## 3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化を尊重し、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、独創的な主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的に表している。	美術作品などの表現の工夫や国際理解に果たす美術の役割、美術文化などの理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子	ワークシート アイディアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

#### 4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	油彩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F8サイズを基本として、油彩を描く。(本人の希望によりF80まで制作可とする)</li> <li>・風景画、静物画、人物画の中から、各自が主題を選択し、制作する。</li> </ul>	○	○	○	○	a: 主体的・意欲的に課題に取り組んでいるか  b: 感性や想像力を働かせて構想を練っているか  c: 主題に合った表現方法を工夫しているか  d: 作品のよさや美しさを創造的に味わっているか。	ワークシート アイディアスケッチ 制作途中の作品 作品 合評会
2 ・ 3	卒業制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B1パネルにアクリル画を描く。</li> <li>・パネルの水張り技術を学ぶ。作品のテーマは自由とし、主体的・創造的に作品を制作する。</li> </ul>	○	○	○	○	a: 主体的・意欲的に課題に取り組んでいるか  b: 感性や想像力を働かせて構想を練っているか  c: 主題に合った表現方法を工夫しているか  d: 作品のよさや美しさを創造的に味わっているか。	ワークシート アイディアスケッチ 制作途中の作品 作品 合評会

※ 表中の観点について

a: 美術への関心・意欲・態度      b: 発想や構想の能力

c: 創造的な技能      d: 鑑賞の能力

#### ※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和5年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「 書Ⅲ 」( 光村図書出版 )						
副教材等	「 」( 出版)						

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

これまでの書道における表現と鑑賞の幅広い活動を通して深めてきた理解や技法をもとに、主体的な創作活動を行います。自らの思考や個性を書で表現する楽しさを学びましょう。

2. 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の実力を高める。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 書への関心・意欲・態度	b: 書表現の構想と工夫	c: 創造的な書表現の技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な諸表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技術を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加状況や態度</li> <li>・学習の記録</li> <li>・制作カード</li> <li>・学習成果(作品)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果(作品)</li> <li>・制作カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果(作品)</li> <li>・制作カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加状況や態度</li> <li>・鑑賞カード</li> <li>・学習成果(作品)</li> </ul>

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	漢字の書 の美と文化	・臨書や鑑賞を通じて、各古典の用筆法・運筆法や、表現の特徴を理解し、自らの意図や感動を表現できる技法を習得する。 ・主体的に習得した技法を用いて創作に取り組む。 ・創作した作品を鑑賞しあう。 ・作品展への出品を目指す。	○	○	○	○	a:書に関心をもち、主体的に活動に取り組んでいるか。 b:書のよさ、美しさを感じ、意図に基づいた表現の工夫がされているか。 c:基礎的な能力を身に付け、効果的な表現の技法を用いることができるか。 d:書のよさや美しさを創造的に味わっているか。	作品 学習の記録 制作カード
2	仮名の書と 美の文化	・さまざまな古筆の特徴を理解し、意図や感情を表現できる技法を習得する。 ・臨書や鑑賞を通じて、用筆法や運筆法を理解し、主体的に創作に取り組む。 ・創作した作品を鑑賞しあう。	○	○	○	○	a:書に関心をもち、主体的に活動に取り組んでいるか。 b:書のよさ、美しさを感じ、意図に基づいた表現の工夫がされているか。 c:基礎的な能力を身に付け、効果的な表現の技法を用いることができるか。 d:書のよさや美しさを創造的に味わっているか。	作品 学習の記録 制作カード
2	創作	・自己の表現を求めて、自らの思考や感動を表現する語句と書表現との関係について考える。 ・用具・用材による表現の変化を楽しみ、創造的表現を工夫する。	○	○	○	○	a:書に関心をもち、主体的に活動に取り組んでいるか。 b:書のよさ、美しさを感じ、意図に基づいた表現の工夫がされているか。 c:基礎的な能力を身に付け、効果的な表現の技法を用いることができるか。 d:書のよさや美しさを創造的に味わっているか。	作品 学習の記録 制作カード
3	創作	・自己の表現を求めて、自らの思考や感動を表現する語句と書表現との関係について考える。 ・用具・用材による表現の変化を楽しみ、創造的表現を工夫する。	○	○	○	○	a:書に関心をもち、主体的に活動に取り組んでいるか。 b:書のよさ、美しさを感じ、意図に基づいた表現の工夫がされているか。 c:基礎的な能力を身に付け、効果的な表現の技法を用いることができるか。 d:書のよさや美しさを創造的に味わっているか。	作品 学習の記録 制作カード

※ 表中の観点について a:書への関心・意欲・態度 b:書表現の構想と工夫  
c:創造的な書表現の技能 d:鑑賞の能力

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

※令和3年度以前入学生用

教科	芸術	科目	(学)基礎デザイン	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	プリント教材						
副教材等							

## 1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

・目的や機能から考える「デザイン」の基礎知識や技術について学習します。  
 ・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形態・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。

## 2. 学習の到達目標

・目的、機能、美しさなどを考えて主題を生成すること。  
 ・表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練ること。  
 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。  
 ・表現方法を工夫し、目的や計画を基に表現すること。

## 3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	美術への創造活動の喜びを味わい、デザイン の多様な表現に関心をも ち、主体的に主題を生成 して構想を練ったり目的 や計画を基に表現したり しようとしている。	感性や想像力を働か せて、目的、機能、美し さなどから、主題を生 成し、表現形式の特 性、形や色彩などの造 形要素の働きを考えて 創造的な表現の構想 を練っている。	意図に応じて材料や用 具の特性を活かし、表 現方法を工夫して、目 的や計画を基に表現し ている。	様々な作品の良さや美 しさ、制作意図と表現 の工夫、メディア表現 の特質や効果などを感 じ取り、デザインと暮ら しとの関わりや社会を 豊かにするデザインの 働きについて理解を深 めている。
評 価 方 法	・制作の様子 ・ワークシート ・鑑賞活動やグループ ワークの様子	・ワークシート ・アイディアスケッチ ・制作途中の作品 ・作品	・制作途中の作品 ・作品	・ワークシート ・発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。  
 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

#### 4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	色彩の基礎知識	・色彩と構成に関する基礎知識を学ぶ。 ・身近な物の成り立ちやニーズについてグループで話し合い、発表する。 ・色彩構成の小作品を制作する。	○	○	○		a: ワークシートの内容が生徒自身の考察により記述できたか。 b: 学んだ知識を活用して構想がねられているか。 c: 制作意図が表現できているか。表現技術は高まったか。 d: グループワークで積極的に建設的な発言ができたか。	ワークシート グループワーク 作品
1	構成と視覚効果	・色彩や構成による視覚効果を理論的に学ぶ。 ・校内の部活動活性化をめざし、ポスターを制作する。	○	○	○	○	a: ワークシートの内容が生徒自身の考察により記述できたか。 b: 学んだ知識を活用して構想がねられているか。 c: 制作意図が表現できているか。表現技術は高まったか。 d: グループワークで積極的に建設的な発言ができたか。	ワークシート アイディアスケッチ 作品 合評会
2	企画立案とプレゼンテーション	・ユニバーサルデザインの意味や必要性について理解し、ニーズからデザインを生み出していく「企画・立案」の流れを学ぶ。 ・水貼りの技術を学ぶ。 ・任意で2～4名の班を作り、班ごとにプレゼンテーションボードを作成する。	○	○	○	○	a: ワークシートの内容が生徒自身の考察により記述できたか。 b: 学んだ知識を活用して構想がねられているか。 c: 制作意図が表現できているか。表現技術は高まったか。 d: グループワークで積極的に建設的な発言ができたか。 合評会では、作品の良さを語り他の作品の良さを鑑賞するできたか。	ワークシート グループワーク アイディアスケッチ 作品 合評会
2	設計、モデル制作とプレゼンテーション	・「椅子のデザイン」というテーマで、いつ・どこで・誰が・何の目的で使うかを各自で設定し、コンセプトに合ったデザインを設計する。 ・デザインに合った素材を探し、モデルを制作する。 ・プレゼンテーションと合評会を行い、意見交換をする。	○	○	○	○	a: ワークシートの内容が生徒自身の考察により記述できたか。 b: 学んだ知識を活用して構想がねられているか。 c: 制作意図が表現できているか。表現技術は高まったか。 d: 合評会では、作品の良さを語り他の作品の良さを鑑賞するできたか。	アイディアスケッチ 作品 合評会
3	小立体のデザイン	・シルバーリングのデザインをし、純銀粘土で作品を制作する。	○	○	○	○	a: ワークシートの内容が生徒の考察により記述できたか。 b: 学んだ知識を活用して構想がねられているか。 c: 制作意図が表現できているか。表現技術は高まったか。 d: 合評会では、作品の良さを語り他の作品の良さを鑑賞するできたか。	アイディアスケッチ 作品 合評会

※ 表中の観点について

a: 美術への関心・意欲・態 b: 発想や構想の能力  
c: 創造的な技能 d: 鑑賞の能力

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

※令和3年度以前入学生用

教科	芸術	科目	(学)ピアノ実習	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	プリント教材						
副教材等	「標準バイエルピアノ教則本 全音ピアノライブラリー」(全音楽譜出版社)「やさしく弾けるピアノ伴奏保育の歌」(新星出版社)、各自の選択楽曲の楽譜等						

## 1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

楽器の技術を習得するためには、毎日コツコツと練習する時間と気持ちが必要です。演奏できなかった楽曲を演奏できるようになったとき、どうやったらできるようになったのか理解することができます。楽器の技術の習得には個人差があります。1学期から2学期の前半は、主にピアノ演奏に必要な技術の練習を学習します。進学でピアノ演奏が必要な皆さんも受講可能です。バイエル教則本の25番程度と童謡4曲程度を実習します。2学期中ごろからは、各自のその時の技術に沿った楽曲に取り組み、3学期は演奏した楽曲に挑戦します。幼児・教育関係の学校に進学する予定の皆さんは、入学後、必ず楽器のレッスンがありますので、授業だけでなく外部でレッスンを受けるなどしましょう。

## 2. 学習の到達目標

1. 楽譜の読み方の習得 2. 運指の習得  
3. 旋律を弾く技術の習得 4. 伴奏の技術の習得  
5. 楽曲演奏の技術の習得 6. 伴奏法の学習 7. 弾き歌いの技術の習得 を目標とする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

## 3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	1. 授業態度 2. 練習の取り組み状況 3. 自主練習時間の確保	1. 楽譜の読み方 2. 運指など、楽曲演奏に際して、楽曲に反映されている作曲家の意図を読み取ることができるか	1. 運指 2. 旋律の演奏 3. 伴奏の演奏 4. 弾き歌い 5. コード演奏	1. 2人1組で演奏の練習(環境が許せば1人で練習します)をするので、その際、協力できているか。 2. 演奏に技術的な差がないか(できる部分とできない部分の演奏技術の差) 3. 客観的に自己評価が行えるかどうか 4. 反省点やその改善点を具体的に記述できるかどうか
評 価 方 法	1・観察法 2・観点シート記入 3・振り返り	1・観察法 2・実技試験 3・観点別シート記入 4・振り返りシート記入	1・実技試験 2・観点別シート記入 3・到達度シート作成	1・他の生徒の演奏を評価する 2・振り返りシート記入 3・ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

